

カナダ銀行は政策金利を据え置き

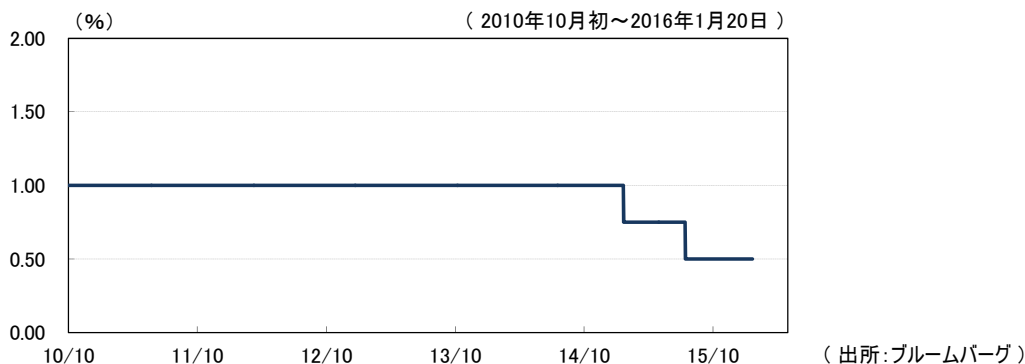
2016年1月21日

<市場予想が割れる中、カナダ銀行は政策金利を据え置き>

1月20日(現地、以下同様)、カナダ銀行(中央銀行)は政策金利(翌日物金利の誘導目標)を0.50%に据え置くことを発表しました。ブルームバーグの事前調査によると、エコノミストの予想は「据え置き」と「0.25%ポイントの利下げ」でほぼ半々に割れていました。

据え置きの理由として、カナダ銀行は声明文で、インフレに関するリスクがおおむね均衡しており、現状の金融政策スタンスは適切であると判断したと説明しています。一方、記者会見でポロズ総裁は、今回の会合では金融政策について緩和バイアスで議論が始まったことを指摘しました。また、同総裁は今回の据え置きの理由に、3月頃に発表が見込まれる新年度予算案で財政刺激策が期待されること、足元のカナダ・ドル安による景気刺激効果、過去の通貨安が遅れてもたらすインフレ押し上げ効果を加味したことを挙げました。

カナダの政策金利の推移



<景気見通しを引き下げ>

声明文と同時に発表された金融政策報告書では、物価見通しに大きな変更は見られないものの、景気見通しを引き下げられました。

景気見通しの引き下げについて、カナダ銀行は原油やその他商品価格のさらなる下落がカナダ経済を抑制している点を理由として挙げています。2016年の成長率見通しがやや大きめの下方修正となった点については、2015年10-12月期の成長率見通しが低下したことに伴う技術的な要因が主因であると指摘しています。

1月「金融政策報告書」の見通し(四半期)

	2015		2016		2014	2015	2016	2017	
	7-9	10-12	1-3	4-6					
実質GDP成長率	(前年同期比、%)	1.2 (0.8)	0.3 (0.7)	0.8 (1.4)	1.4 (2.1)	2.4 (2.5)	0.3 (0.7)	1.9 (2.5)	2.5 (2.2)
	(前期比年率、%)	2.3 (2.5)	0.0 (1.5)	1.0 (2.0)	2.2 (2.5)				
コアインフレ	(前年同期比、%)	2.2 (2.2)	2.0 (2.1)	2.0 (2.1)	2.0 (2.1)	2.2 (2.2)	2.0 (2.1)	2.0 (2.0)	1.9 (2.0)
消費者物価	(前年同期比、%)	1.2 (1.2)	1.4 (1.4)	1.5 (1.6)	1.1 (1.5)	2.0 (2.0)	1.4 (1.4)	1.4 (1.6)	1.9 (2.0)

※下段括弧内の数値は15年10月「金融政策報告書」の見通し

実質GDP成長率見通し(年間、前年比、%)

	2014	2015	2016	2017
カナダ	2.5 (2.4)	1.2 (1.1)	1.4 (2.0)	2.4 (2.5)
世界	3.4 (3.4)	3.1 (3.0)	3.3 (3.4)	3.6 (3.6)
米国	2.4 (2.4)	2.4 (2.5)	2.4 (2.6)	2.4 (2.5)

※下段括弧内の数値は15年10月「金融政策報告書」の見通し

(出所:カナダ銀行)

当資料のお取り扱いにおけるご注意

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。■当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。■当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。

販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託 フリーダイヤル 0120-106212(営業日の9:00~17:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>

<今後の見通し>

2016年の成長率は、堅調な米国需要や通貨安、緩和的な金融環境に支えられ、緩やかに加速する見通しです。ただし、新年度の予算案が発表前であることを理由に、今回の見通しに財政刺激策は含まれていません。

カナダ銀行は今後、非資源部門の回復の進展や財政政策の景気押し上げ効果などを見極めるために、当面は政策金利を据え置くと考えられます。景気見通しを引き下げたことで、ファンダメンタルズの一時的な弱まりを理由に、利下げに追い込まれる可能性は低くなったとみています。また、足元の金融市場の不安定さに鑑みると、環境が将来さらに悪化した場合に備えて、政策対応の余地を残しつつ、カナダ・ドル安が非資源輸出の拡大などを通じて実体経済にプラスの効果を及ぼすことを見極める戦略とみています。

なお、今後のスケジュールとしては、次回の政策金利の発表が3月9日に予定されています。また、次回のカナダ銀行の景気・物価見通しが掲載される四半期の金融政策報告書の発表は、次々回の政策金利が発表される4月13日の予定です。

以上